

【様式1】

概要書

研究名	レモン外皮のカット方法の研究開発
民間機関等 (相手方)の名称	株式会社 いわぎ物産センター
研究の概要	<p>レモンは瀬戸内が全国一の生産量を誇っており、現在は価値が見直され需要が増えている特産品である。</p> <p>レモンは、果実だけでなく外皮も様々な用途で使用され商品化されており、実がまるごと使用できる付加価値の高い商品として活用され需要が高まっている。</p> <p>現在の皮剥き工程は手作業で行っている。レモンは外皮が厚くて硬く、果実と密着しているため30年来様々な手法を企業独自に研究されてきたが、効率よく剥く手法を開発できていない。また、外皮は個々の用途に合わせた外皮の剥き方が必要で、搾る果汁の歩留まりや風味も大きく変わってくる。</p> <p>高齢化や重労働なため作業を行う労働者が急速に減少しており、今後レモンの外皮を効率よく剥くことができれば、工場で量産することが可能となる。</p> <p>本件では、レモンの皮を剥きやすくするため、どのように外皮をカットすればいいのか新しい手法を考案し、試作機を設計・制作し実験を行った。レモンの形状や大きさ、皮の厚み、硬さなどがひとつひとつ異なっているため非常に難しい。</p> <p>まだ改良や改善を行っていく必要があるが、今後の皮を剥くための装置化の方向性を確認することができた。</p>